

桂昌殿

桂昌殿は、五代将軍徳川綱吉（1646-1709）の母である桂昌院（1627-1705）が寄進しました。桂昌殿は 1699 年に建立され、神職が日本の平和と安定を祈る祈祷所として使われました。

建築的には、この祈祷所は元禄時代（1688-1704）の建造物の典型である、住まいのような外観を持っています。歴史的には、桂昌殿は春日大社と、江戸時代(1603-1867)に日本を治めていた、徳川家との強い結びつきを表わしています。通常、観光客は桂昌殿の中へ入れませんが、儀式や特別な催しの際には公開されることもあります。

桂昌院は、下層階級の生まれでしたが、将軍徳川家光（1604-1651）の側室となり、家光の世継ぎを生みました。徳川家光の死後、尼となりましたが、1705 年に亡くなるまで、政治、私事の様々な問題について、息子綱吉に助言を与え続けました。桂昌院は聡明さだけでなく、春日大社のような、仏教寺院や神社を後援したことで記憶されています。